

本は言葉の宝箱

人生の中でターニングポイント（分岐点）となる場面は必ずやってきます。（株）池松機工の池松康博社長は、本を読むことがきっかけでさまざまな知識や哲学を学びました。そしてそのターニングポイントの場面で背中を押してくれた読書。本を読むことで作られていった池松社長の人生観を聞きました。

（株）池松機工は昭和59年創業（当時は有池松機工）。大津町に移転したのは平成7年のことでした。現社長の池松康博さんは、熊本市の出身。現在は大津町企業連絡協議会の会長も務めています。

父の思いを受け継ぎ 池松機工に

子どものころは遊んでばかりいたという池松さん。しかし世の中の不思議なことに答えを出してくれる科学には、特に興味を持ったそうです。「どうしてなんだろう？なぜだろう？」に答えてくれる科学の本を読みあさっていた少年だったといいます。中学生になると体を動かすことが大好きだった池松さんはバスケットボールの練習に明け暮れます。そして高校を卒業後、ある農機具会社に就職。そこでは農機具の設計を担当していましたが、OA機器のメーカーに転職します。

そして平成5年に（株）池松機工に入社。父である安春さんの思いを受け継ぎ、平成20年に社長へ就任します。

挫折、乗り越える壁―

決してそれは順風満帆の人生ではありませんでした。農機具会社を退職後、結婚した池松さん。やりたいことが見つからずにアルバイトをしながら新婚生活を始めました。

専門は機械系でした。しかし電子、電気系の仕事がしたいと思った池松さんは、電子や電気の基礎を独学で学びました。目の前にある壁は高く、乗り越えるのは困難なことでしたが、努力は実り、就職試験を突破し、やりたかった仕事に就くことができたのです。

しかし、それだけではありませんでした。30代前半に体を壊してしまいます。仕事は忙しくなり、夜も眠れなくなります。業務時間は増加し、役職も中間管理職になり、心労は絶えませんでした。体調も悪くなる一方で、ついには研修先の宿泊所で倒れてしまいます。

「一瞬、心臓が止まりました」と語る池松さん。病院に行き検査を受けても異常はなく、ストレスが原因だと診断されます。

眠れないため睡眠薬を飲み、仕事を続けました。ストレスか、薬の影響か、手は震えて文字を書くこともまなまりませんでした。

その時に、池松さんを救ってくれたのが「本」でした。多くの人の考え方や思いに触れることで心がスツと楽になったのです。

本はボクに、 勇気をくれる―。

（株）池松機工代表取締役社長
大津町企業連絡協議会会長

いけまつやすひろ

池松康博さん

